

平成24年度
第1回 櫛引地域審議会
会議録



期 日：平成24年5月31日(木)13:30～

場 所：櫛引公民館多目的ホール

平成 24 年度 第 1 回櫛引地域審議会

○日 時：平成 24 年 5 月 31 日(木) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 47 分まで

○会 場：櫛引公民館多目的ホール

○出席者：敬称略

(委員) 前田勝、畑山久恵、平藤博巳、成田新一、澤川宏一、渡会昇、佐久間泰子、秋山武彌、金内勝雄、小林良市、五十嵐繁、成田勇、芳賀俊之

(市側)・支所佐藤孝朗、総務企画課長今野勝吉、同課主幹菊地ゆかり、産業課長齋藤功、同課主幹佐藤浩、市民福祉課長本間俊司、総務部南部税務室長菅原ゆり、建設部南部建設事務室室長補佐渡部善弘

企画部長秋野友樹、企画部次長兼地域振興課長三浦総一郎、同課地域振興専門員三浦裕美、

総務企画課総務地域振興主査前森淳子、同菅原正一、同課コミュニティ防災専門員眞壁建、同課主任梅津一成、同佐藤文博

1、開会

13:30

2、あいさつ

前田勝会長

どうも皆さんこんにちは。新緑が目にも沁みるような大変好季節を迎えております。本日の地域審議会のご案内を差し上げましたところ、委員各位には大変ご多用の中ご参集いただきましてありがとうございました。実はこの会議、2月に当初開く予定でおったのでございますけれども、先に2月に委員各位にも文書を差し上げたところでございますが、諸般の事情により、本日にさせていただいたという経緯があります。

さて、当審議会は、平成 22 年から「行政による積極的な婚活支援の推進」、そしてまた昨年は「地域コミュニティの活性化方策について」を協議テーマにして取り組んで参りました。委員各位からは、積極的なご意見をいただきまして昨年は、市長のほうに提言書を提出させていただきました。

この秋で、新生鶴岡市が発足して満 7 年を迎えるわけでありましてけれども、振り返ってみます、とこの時期に限って申し上げれば学校であるとか、あるいは道路、上下水道、そういった主要なインフラについては、当地域は大変整備率が高いわけです。学校は、小中、全部新しくなっておりますし、下水道については限りなく 100%に近い対応になっているわけでございます。

この春には、南部児童館、西部児童館、いわゆる課題になっておりました児童館につきましても、市当局で色々がんばっていただいて保育園化して社会福祉協議会のほうに業務を委託するとうこういった運びとなりました。そういった意味では、幼小中、こどもの生い

立ちについてのいろんな整備をしていただいたとこととでございます。

今申し上げたように主要なインフラが整備になりましたが、どうもかつての櫛引町を想起させるような活気がなくなっている、これが社会状況のせいでもありまして、一概に合併したから地域力が落ちたとか、そういうものではないと思いますけれども、何か14万鶴岡市の中に吸収される中で、どうもかつてのような活力を感じられない。今回の提言につきましても、テーマを絞って市長のほうに提言を申し上げたわけですが、他地域ではやや総花的になっていたようでございます。

今日は、6月以降から新たなメンバーで会がスタートするわけでございますが、過ぎたこの2年の取り組み、そして具体的に当櫛引地域を活性化していくためにどんなことがあるか、皆さんから率直なご意見をいただきたいと思っております。

なお、それに先立ちまして市の事務局から色々と報告もいただくことにしておりますので、提言がどのような取り扱いになったかということも説明があると思っておりますので、一つよろしくお願いたします。本日は本当にご苦勞様です。

佐藤孝朗支所長

皆さんこんにちは。この4月より櫛引庁舎支所長を務めております佐藤孝朗と申します。よろしくお願いたします。

まず委員の皆様方におかれましては、何かとご多用のところ平成24年度第1回の櫛引地域審議会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。また日頃より皆様方におかれましては、それぞれのお立場からこの地域の振興に力添えを賜っておりますことに改めまして感謝を申し上げます。

既にご案内のとおり、地域審議会は、市町村合併特例法の規定に基づきまして、新鶴岡市が処理する旧市町村の区域に関する事務について、市長の諮問に応じて審議を行うため、旧市町村ごとに設置されたものであり、行政からの情報提供と合わせ、委員の皆様から地域の実情などをお話いただき、情報を共有するとともに、実施可能なものについては、施策へ反映させることを目的とする場でもございます。

櫛引地域審議会では、地域庁舎での課題調査の結果などをもとに、委員の皆様から地域活性化に関するテーマを設定して、協議を行っていただき、「行政による積極的な婚活支援の推進」、「地域コミュニティの活性化方策について」の2点について提言書として纏め、平成23年12月に市長に提言いただきました。委員の皆様には、ご多用の中にも拘わらず、この間、真摯なご論議をいただきましたことに厚く御礼を申し上げます。

本日は、提言を踏まえた施策の展開等も含めて平成24年度予算と事業等についてご報告申し上げますので、今後の地域審議会の進め方等について忌憚の無いご協議をいただきたいと存じます。

本審議会をとおして委員の皆様方のご意見を十分にお伺いし、鶴岡市、とりわけ櫛引地域における事務事業の推進にできる限り活かしてまいりたいと考えておりますので、よろ

しくご審議のほどお願い申し上げ、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

3、報告

(1) 平成 24 年度予算及び主な事業の概要について

— 資料に基づき支所長及び各所管管理職が説明 —

成田勇委員

鶴岡パートナーズ事業について、昨年私も区長会で説明受けたわけですが、鶴岡全体として、パートナーズ推進事業についてはどのくらいの成果が出ているのか、ちょっとわかればお聞きしたいと思います。

秋野企画部長

全体の資料ということで、私資料を持ってきていないのであれですが、地域で色々取り組んでいただいております。まずは公共施設の公園ですとか、あるいは運動公園の芝の整備ですとか、そういったもので取り組んでいただいております。大山公園の整備などにつきましても活用いただいているようであります。随時、このようなことはどうなのかというお話があれば、企画調整課のほうで相談を受けておりますし、またパートナーズだけでなく、逆にそこから各課の事業で対応できないかというようなこともございますので、もしあれば、随時お話をいただければと思います。

成田勇委員

櫛引地域では 1 件もないですか。実施規模というのは、どれくらいなのでしょう。

秋野企画部長

規模につきましては、今は分からないのでございますけれども、さまざまなことをやっております。ですので、先ほどもお話申し上げましたとおり、パートナーズということでご相談を受けた場合でも、これだったらこっちの事業でやったらどうか色々ありますので、「いきいきまちづくり事業」だとかそちらのほうで対応したほうが良いこともございますので、色々ご提案いただければと思います。

平藤委員

住民自治組織活性化事業でモデル地区を選定し、とありますけれどもこのモデル地区はどれぐらいを予定していますか。

今野総務企画課長

モデル地区ということでは、2 地区ぐらい、平野部 1 箇所、中山間の地域で 1 箇所ということで 2 箇所ぐらいを想定しておりますけれども、これから地域への説明ということになりますので、リーダー研修等は、ほぼ全域から参加していただきましたので、そういった方々を中心として集落ビジョン等の策定に向けていければと思っておりますので、よろ

しくお願いいたします。

平藤委員

ここに集落自治会館とありますけれども、集落自治会間だと思いますが、どうですか。

今野総務企画課長

すいません、ご指摘の通り、集落自治会間は、集落自治会同士の交流を支援してまいりたいと。先例としては、上山添地区と松根地区が交流した実績がございますけれども、地域の枠にとどまらず、地域間の情報交換が有意義なものであろうということで、そういった活動についてもコーディネートしていけたらと考えているところです。

小林委員

鶴岡ルネサンス宣言の中の創造文化都市宣言の中で、「鶴岡シルクの振興」ということに触れている件があります。養蚕経営の安定化を図りますと書いてありますけれども、養蚕経営についてはあまり聞かないですけれども、どれくらいの戸数があるやっっているものなのか。それと、櫛引地域でこれに該当するものとしては、長南光さんなどがやっている綴織もこれに該当するものだと思いますが、この創造文化都市宣言関連事業で具体的に櫛引地域における取り組み、あるいはそれを支援する施策とは何なのか。なお、全体の中でされていくのだとは思いますが、特に櫛引地域としては、つるおか綴れがありますので、その辺の予算などについて教えていただきたい。

秋野企画部長

シルクタウンプロジェクトの関係でございますが、現在養蚕経営者は一軒だと承知しております、藤島だと思いますけれども。このことに関しましては、生産から製品化まで一貫してできるというのは鶴岡だけということもございまして、それを一つのキーワードにしまして振興を図っていくということでございます。ご承知の通り、中央高校のシルクガールズ、それから先ほどお話ありました綴れ織の関係もございまして、それから製品化の方では「きびそ」を中心とした製品化ということもございまして、生産の面で大変だということもあったのですが、「きびそ」については大変注目されているということもありますので、そういうことが産業に結びつけば、ということもございまして。

今野総務企画課長

櫛引との関連としましては、長南さんのグループ、それから京都の織元さんと受注生産でやっておられるグループ、13名ほどのメンバーのようではありますが、そういったグループもありまして、平成22年にアートフォーラムで作品展を開催しておりまして、京都の織元とのつながりもあります。

成田委員

同じく櫛引庁舎の3ページであります。都市農村交流農産物販路拡大等支援事業であります。農協の青年部に補助金を出しているという中味ですけれども、これまでの取り組みの中でどのような評価ができるような実績や事例があったのでしょうか。教えていただ

きたいと思います。

それから総務企画課の婚活支援事業についてですが、地域のイベント魅力アップと書いてありますが、このへんのねらいと、どういうことなのか教えていただきたいと思います。

佐藤産業課主幹

それでは1点目の都市農村交流ということでのどのような成果があったかということですが、まず活動の内容についてご紹介させていただきますと、ご承知の通り、横浜市の青木小学校の修学旅行の受け入れ、その前には出前授業ということで稲作の授業を出向いて行なっているということ、神奈川の中央区民祭りで農産物の販売を子ども達と一緒にやって行っているということ、また青木小学校でふれあい祭りという秋に行うイベントがありますけれども、そこにも出向いていきまして農産物の販売を学校で行っているということがあります。こうした小学校とのつながりが、鎌倉女子大ともつながりまして、そちらの大学で農業講義を実施したり、また女子大の学生の皆さんがこちらにいらっしゃって農業体験をしたりと、そういうことをしていると伺っております。過日、その産直販売の推進委員会が行われましたが、その時農協の課長さんからは、この活動についてはだいぶ長くなってきたということで、さらに広がりを作るために青木小学校を拠点とする地域の人たちと小売店等と協力しながら、何とか地域の農産物をそこに置くような手法が出来ないかとか、アンテナショップではありませんが、そういう取り組みまで考えながら広がりを作っていきたいと伺っているところであります。青年部の活動としては、顕著な実績を上げていただいていると認識しているところであります。

今野総務企画課長

2つ目の地域のイベント魅力アップというところでございますけれども、これにつきましては、婚活支援事業、これまでどっちなかといったら、昨年度は、多少広がりもあったわけですが、櫛引地域が先導してやってきた形になってはいますけれども、昨年度は、本所においても予算付けをしながら実施をいたしましたし、今年度からは更に全庁舎に広げて、それぞれの地域資源を活用したりしながら地域庁舎のイベントの中で婚活支援事業とタイアップして実施してまいるということでございます。

芳賀委員

資料 NO. 4 のことについて、ちょっとお尋ねしたいと思います。ページは5ページ。この下段のところに、定年退職対応ということだと思いますけれども、機能強化に向けて職員配置の重点化を図ったという件があります。それから一番下に、地域の実情に応じた取り組みが出来るよう整理統合した総合交付金制度を設けることと書いてありますが、具体的にはどういうことになっているのか。それから6ページの一番下、確か私も予算を設けるようにと申し上げましたけれども、それは難しいというようなことなのですが、そのあとの「地域で必要とする独自の事業予算については、庁舎職員が一丸となって、積極的に確保していくよう努める」とありますが、こういう表現でよろしいのかどう

か。今、我々の頭の中には合併後縦割りが一段と強化されているように見えるのですけれども、果たして庁舎職員が一丸となってという表現がどういうことを意味しているのか、確認しておきたいと思います。

今野総務企画課長

1点目の機能強化に向けた職員配置の重点化についてですけれども、これについては税務部門、建設部門につきまして、櫛引・朝日地域については、南部税務事務室、南部建設事務室という組織になったわけでございます。従前それぞれの庁舎に分かれていた部分をいずれかの地域庁舎に集約することによって、機動力といいますか、専門性の強化というようなことでの体制を、この4月から採っているところでございます。またこのことにつきましては、当初懸念されていた部分ということで、特に建設部門についてお話しがあったわけですが、今現在区長さん等からの要望・相談につきましては、櫛引庁舎ので受けまして建設事務室のほうに連絡を取っていると、そういったことで現場の確認、あるいは対応について、すぐに対応させていただいております。今のところ、このことについて区長さんのほうからお叱りを受けるようなことにはなっていないと思っております。

それから、2つ目の総合交付金の制度についてでありますけれども、うちのほうで言いますと区長ですけれども、他の庁舎では、町内会長や駐在員ということで、各地域で特別職ということで委嘱しているところ、そうでない地域もございます。それから各種支援の制度につきましても色々議論されている部分では、防犯灯等への支援のあり方、それから行政交付金ということで自治活動に対する支援交付金があるところそうでないところ、ということで地域に対する支援がまだ統一になっていないですけれども、まず、区長の特別職については、特別職でなく地域と市が対等な立場ということでも見直していく、それから、諸々の交付金制度につきましては、その地域の特性を踏まえながら、統一的なルールを作っていくということで、今現在、櫛引地域からは区長会の会長さん、自公連の会長さんから委員になっていただいておりますけれども、そういった話し合いのほうを積極的に持っているというところでございます。

続いて、地域で必要とする独自の事業予算についてということでございますけれども、これについては、同じような合併市のなかでも地域庁舎に対して一定の額を予算付けして地域独自予算としている他の団体もあるようですけれども、鶴岡市の場合はそういったことではなくて、地域活性化予算ということで具体的には地域資源を活用した特色ある事業ということで、今回は確保できているわけですけれども、これにつきましては、引き続き地域特性を活かした地域活性化のための予算の確保のために庁舎職員が積極的に研究しながら確保していこうということでございます。

芳賀委員

一言だけ振り返っておきますけれども、機能強化・重点化することが、我々住民に対する強化とは写らない。逆のようにも見える。このことだけは地域住民とズレがあるのでは

ないかと思えます。その次の、総合交付金制度を設けることとしているということですが、24年度は実質的に予算化されていると解釈してよろしいのか、もう一度お聞きしたいと思います。

今野総務企画課長

24年度については、まだ全市域、従前のままでございます。確か24年度中の方向で協議を進めさせてもらっている、そういう段階でございます。

澤川委員

4ページの伝統芸能保存伝承支援、この一番最後に「黒川能以外の櫛引地域の伝統芸能の記録保全については、演舞の様子の収録が、平成23年度までの事業で完了している」という記述があるのですが、具体的にどういった形での記録保全なのでしょう。

今野総務企画課長

教育分室が今まで担当しておりました部分でございまして、どの程度の部分が記録保全されているかは、今ここで、正確にお答え出来ない部分でございます。従前、各地域の天狗舞獅子舞の伝承経緯とかそういったものについては、ずいぶん前ですけれども、まとめた冊子が出されたことがあることは承知しておりますが、後ほどお答えさせていただきます。

澤川委員

記録の方法ですが、たとえばDVDに保存しておくとか、映像的などとして保存方法になっているのでしょうか。それから記録そのものの活用の仕方も具体的にお示ししたいと思えます。

今野総務企画課長

映像としては、DVDに保存しております。

澤川委員

その映像記録を今後どういった活用になるのか、その辺お聞きしたいと思います。

今野総務企画課長

お答えするのが非常に難しい部分でありますけれども、例えば、今回の松根地区では、一時伝承が途絶えていた筈でありますとか、そういった部分について、記録をとっておいたということがあって復活をしたということがあったようですけれども、そういった場合について途絶えないようにすることができると思えますし、そういった部分で今までの部分で足りないような部分があるとすれば、さらに黒川能以外についてもいろんな形での保存伝承への支援も可能かと思えます。

前田会長

今の件ですが、無形文化財というのは、時間とともに伝承が曖昧になるものがあります。丸岡でも桐箱踊りでも伝承だけとってみても、今の指導者の中でいろんな意見の食い違いがありまして、その時に、記録集のテープをみんなで見て、そこに戻そうと、ここを原点にしようということで一つのトラブルが解決したということがあります。天狗獅子舞もい

ろんなそういうものは人から人への伝承なものだから、手の上げ方、高さ、色々変わってきて、とにかく伝承上のトラブルになるのです。ですから、DVDとかきちんと収めていれば、後で伝承上の疑問が出てきたときそれに戻ると、みんながそれでいいといえれば戻るわけですから、大変大事なことだと思っています。

小林委員

映像記録についてですけれども、ライブラリーで図書館に備え付けをして、いつでも見られるようにしてもらいたいし、貸し出しをして地域や現場で見ながら芸能をさらに伝えていくための資料にしていただければいいなあと思います。

丸岡で言えば天狗舞あり、獅子舞あり、子供たちが舞うみかん子舞を披露する機会もありますし、装束をつけてからから、きちっと収録してライブラリーにするのは重要だと思います。

この間も収録したということですが、カメラ1台では記録をしたとはいいがたい、観客が目の前を通り過ぎるということが普通だと思いますので、しっかりと記録に残すことは非常に重要なことだと思いますのでぜひよろしくお願いします。

渡会委員

櫛引夏祭りのことについてですけれども、昨年度から農協さんと商工会、観光協会が一緒になってやっているわけですが、これはですね、当初黒川能野外能の仮設をもったいないということで次の日やったわけですが、もう1日くらい、学校も休みなわけですから、もう一つくらいイベントをやってもよろしんじゃないかなと思います。

あれだけの設備でありますので、ずっと舞台があるわけでありませんで、ぜひやることを考えていただいてですね、小学校も中学校も休みなわけですから、そういうことも含めてもう1日イベントをやれないものかなあと思っています。

齋藤産業課長

昨年から、ああいった形で夏まつりを開催したわけですが、ご協力いただきまして本当にありがとうございました。水焰の能の舞台を有効活用する観点も含めまして、翌日に夏まつりを開催するという内容としては、ステージを使って伝統芸能の披露ということも想定しておりまして、今段階で、伝統芸能の団体で活躍されている団体に色々打診させてもらっているところであります。この間事務局の会議がありまして、そこで商工会さんから出た意見なので、こどもや女性からも喜ばれるものというご意見がありまして、子どもが来て楽しめる乗り物とかを準備することも考えております。3日間ということについては、今年度は水焰の能と翌日夏祭りということで、水焰の能では他地域の団体さんが伝統芸能等を発表して、夏祭りでは櫛引地域内の団体から発表ということで予定しております。

4、協議

(1) 平成 24 年度の地域審議会の進め方について

— 資料に基づき今野総務企画課長説明 —

畑山委員

平成 24 年度の地域審議会の進め方については、これまでのように地域課題をテーマに選定して議論を進め、最終的には提言という形にまとめることには賛成です。しかしながら、中山間地域の農家の後継者がいない状態が非常に深刻になっております。若い世代が農家から離れることは、将来的に通勤、通学に便利の良い場所への転出につながり、過疎化、高齢化がどんどん進むことが予想されます。私は、農業は仕事がきつい割には利益が少ないことが農業離れにつながっていると思います。地域課題のテーマも現実を捉えてまさに地域の活性化に役立つ議論、儲かる農業政策に関する提言にまとまることを期待いたします。

芳賀委員

参加していて変なことを言うのもおかしな話ですけども、現実の問題として色々話し合いをしてきましたが、当局が進めるものには非常にギャップ、ズレを感じています。こういう論議をずっと続けていて、どれだけ市政、あるいは地域に反映するのかということが、この何年間か、2年間ですか、参加させていただいて、もう少し私は期待を持っていたのですが、期待を裏切られた感じをしているのが本音であります。この地域審議会、生まれる過程があったかと思えますけども、これから先、地域審議会をどうするかというそういう基本的な考え方が市のほうにあるのだとすれば、ちょっとお尋ねしたいと思えます。

秋野部長

色々なご提言をいただきましたも、市政のほうになかなか反映できないというご指摘がありました。予算等も伴いますしご提言いただいたことが全てすぐに反映できる形にならないということがあろうかと思えます。ただ、櫛引の地域審議会からは、婚活に積極的に取り組んでいただきましたし、それをもとにして行政としても更に婚活支援を進めていったほうがいいだろうということで提案をいただいておりますけれども、そういうようなご意見が反映されて全市的に取り組んでいこうと、今年度の婚活の事業の取り組みになったのだと思っております。そういう面では、大変貴重なご意見をいただくことができよかったと思っております。それから地域審議会の関係でございますが、ご承知のように地域審議会は合併に伴ってできた審議会でございますので、一定の期間としては合併後 10 年というのが一つの区切りだろうなと思っております。ただ 10 年後、地域の方々のご意見を伺うという機会が、またその時点での検討になろうかとは思いますが、引き続きこのような形でご意見をいただきたいというように考えております。

佐久間委員

審議会で今出す話でないかもしれませんが、市の空き家対策のことについてお聞きしたいと思います。この2年間の大雪と、工場の跡地のようなところでこの間の風で壊れているようなところがあったようなので、対策について、市としてどのように考えているのでしょうか。

今野総務企画課長

空き家対策のご質問ですけれども、このことは地域の課題テーマ設定の際もコミュニティ実態調査の中で課題ということで11項目の中にあっただけでございますけれども、今の状況ということでは、全市的に空き家の実態調査をして数的には、把握をしております。その結果、引き続き住まいできるもの、一定程度修復を要するもの、あるいは取り壊しをする必要があるようなものというような区分も含めて実態調査を完了しているようでございます。そういったことを見まして、全国的にも空き家問題というのが話題になっておりまして、県におきましても今年度以降、継続的に積極的に対策を打ってこうという話もございます。そういった流れの中で市においてもそういう動き、そういう方向性で今進んでいると思いますし、空き家の取り壊し等、所有者にも管理を促すような条例の設定というか、そういうことも含めて今まで以上に検討のスピードを上げていくものと思っております。

佐久間委員

少子高齢化になりますと、だんだん空き家も増えていきますけれども、隣近所でもつながりの関係で、所有者の問題だと思えます。今年の冬の豪雪のときに、テレビで見たのですけれども、どっかの市で強制的に壊したという、そういうのがあったものですから、鶴岡市としてはこうしたことを考えていないのでしょうか？

今野総務企画課長

具体的に鶴岡市の場合はそこまでは進んでいない。秋田のいずれかの市だったように思いますけれども。そこまでは鶴岡市の場合はなっておりません。

金内委員

櫛引は元気がなくなったなあ、勢いがなくなってきたなあとそういう感じ、私も感じています。これ一体なんでかなあと思えますと、私担当している体育協会あたりでも、櫛引の活躍している子ども達、大人、今年は特に23年度はうんと活躍しました。中学生が国体で走ったり、それからバレーボールのプランタンズ、ママさんバレーで去年全国大会、また今年は県大会で優勝する、そういうネタはいっぱいある。ただ、それをみんなで喜ぶ場がない。合併によってなくなってしまった。はっきり言って。日本のサッカーががんばったりとか、ダルビッシュがアメリカでがんばっているとか、誰かがニュースにしてみんなで喜び合う場が、地域を元気する。これ体協が合併になってから、前は、毎年ここいっぱい今年ががんばった子ども達の表彰とかがあって、総合閉会式はやっていたわけです。

市が一本になってしまって、エルサンや第一ホテルでわーとやって、櫛引のがんばった顔、がんばったチームをみんなでよかったねと、そういう場がなくなった。やっぱりこういうことがじり貧みたいになって、確かに合併によってこちゃこちゃとした業務がなくなってよくなったかもしれないけども、大事な盛り上がる場というのは、やっぱりやらないと。人もいなくなるし、行事もなくなったし、そういうふうにならないように、行政がみんなが喜ぶ場を作ってもらって、呼びかけるとかね。これうまくいったのが婚活だと思うんです。やり手なのは業者がやればいいけれども、裾野を広げるというのは、行政がはじめることで、そして結果的に業者がやるのとタイアップする、みんなが元気出して一生懸命参加する人多くなればいいのだから、そういうことをこれからの審議会でも、どうしたら櫛引の元気を取り戻せるか、これ、いろんな分野で企画してほしいなと思います。

五十嵐委員

今各地域で少子高齢化、少子高齢化と口では言うけれども、それを解消するのは、やはり婚活運動がもう少し各地域で、それぞれで努力しないと、ただ口で婚活、婚活と言っているだけでは解決しないと思うし、そんなことでやはりこれから各地域で、またこういう場で大きな組織の中でもっとやるのも必要でございますけれども、各地域でもって、それぞれ自分の地域を活性化するというような気持ちでいかないと、婚活運動はなかなか絵に描いた餅に終わってしまうという心配があると私は思います。そんなことで、今まで各地域でそれぞれやっているとは思いますが、なかなか結ばれた話は聞こえてこない。ということもございますので、みなさんこれから婚活運動をするにはどうしたら良いのか、もう少し真剣に考えて、また、今こういう風にやったらいいのではないかとということがございましたら教えていただければありがたいなと思います。

秋山委員

今の話と共通する部分がありますが、高齢者世帯が特に多くなっているようです。これはやはり後継者が外に出て地域から離れていくことかと思えます。若者の定住促進が必要だと思えますし、同時に結婚対策といいますか婚活パーティーも今後もぜひやってもらいたいと思えます。

前田会長

他に委員の皆さんから、何かありませんか。

それでは、協議の(2)その他、は特になしということで、これで協議は閉じさせていただきますが、当局の方から「機構改革に伴う4月からのからの地域庁舎体制の変更について」説明したいとのことですので、宜しく願いいたします。

(2) その他 特になし

5. その他

(1) 機構改革に伴う4月からの地域庁舎体制の変更について

— 資料に基づき今野総務企画課長説明 —

小林委員

総務企画課の中の伝統文化、あるいは生涯学習、これは従来教育委員会の櫛引分室で担当していたわけですが、それが廃止となって総務企画課の中に社会教育の兼務の職員を配置してそれを引継ぎをするということになったと思います。したがって伝統文化や生涯学習については予算執行については教育予算として執行することになるのだらうと思います。その場合は、決裁については社会教育課長あるいは教育部長、教育長といったルートで決裁がなされていくのだと思いますし、そういった施策立案、それから施策の実現など、計画の推進など、そういうことも兼務ということであれば教育委員会のルートの中でそのことは進めると、そういうことになるのかどうか、そのあたりの整理についてお伺いしたいと思います。

今野総務企画課長

教育委員会分室に関しては、全市的にはコミュニティ支援部分が市長部局に移って、庁舎的には、それにプラス公民館、社会教育の一部ということで総務企画のほうに移行しているわけですが、職員体制的には、去年はスポーツセンターも含めて7人おったわけですが、現在は5人になっています。2名減ということですが、これについては、スポーツセンターは含めないで5人ということでございますので、スポーツセンターが、スポーツ課直属の組織ということで、庁舎的には総務企画課のほうに5人、管理職1名に職員4という体制でございます。このことにつきましては、全員が教育委員会の兼務発令をされております。そういったことで予算執行につきましては、併任ですのでそれぞれの区分で教育予算からの執行をしております。コミュニティ関係部分ということで、生涯学習推進員の部分等が教育予算から市長部局のほうに移行しているのがございますけれども、それ以外については教育予算からの執行であります。それから政策の立案等につきましては、この教育部分については、あくまでもコミュニティ部分以外については、移行しておりませんので、従来どおり教育委員会の中でとなります。

成田委員

農協のほうからですが、今まで行政の助成をいただきながらの櫛引支所脇の育苗施設を運営してきたわけですが、そのガラスハウスが一つあるのですが、今年解体することにしましたので、もし、欲しい方あればただでやるということですので、探していただければ大変ありがたいということです。内容としましては、そこを柿の選果の時に、駐車場が少ないものですから、解体したあとは駐車場にするということになっておりますので、もし、欲しい方あればただで譲ることとしておりますのでよろしくお伺いしたいと思います。

前田会長

ほかに委員の皆さんから何かございませんか。

それでは、現在の委員の任期中では最後の地域審議会となりますが、終了させていただきます。

6. 閉会

今野総務企画課長

本日は、長時間にわたりありがとうございました。

以上をもちまして、第1回櫛引地域審議会を閉会させていただきます。

3 : 47